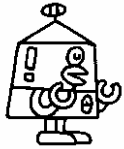


小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
魚の卵の成長 / 理解シート

メダカの水そうに水草を入れるのは、なんのためなの



産んだたまごや、ふ化した子魚のかくれがになるし、
水中に酸素を出してくれる大切な役目があるのさ。

メダカがたまごを産むとき、水草が大切な役目をする

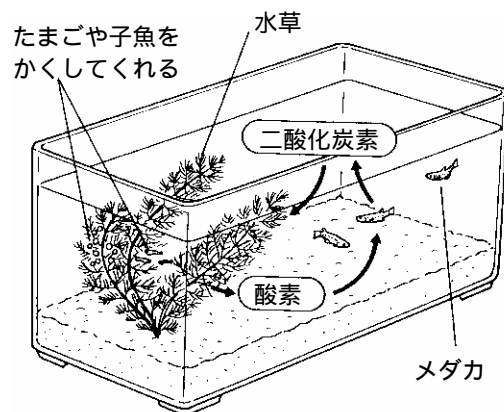
メダカは、水温が 18 以上になる春から夏にかけて、たまごを産みます。メダカは早朝たまごを産み、たまごはしばらく糸のようなものでメスの腹にくっついていますが、やがて、たまごの毛や糸のようなもので水草にからみつきます。

水草がないと、たまごは水そうの底などに散らばり、全部おとなのメダカに食われてしまいます。水草のかげにかくれて、食われなかったたまごだけがふ化し、子魚が生まれます。小さな子魚も、見つかったらえさとして食われるので、水草のかげににげこみます。だから、メダカがふえていくには、水草は大切なのです。

メダカは水中の空気（酸素）を取りこんで呼吸している

たいいていの魚は、水中にとけた酸素を呼吸して生きています。メダカは空気に接した水面近くを泳いでくらししているので、大きな水そうに少ないメダカの数なら、水草がなくても平気です。でも、小さな水そうにたくさんのメダカなら、水中の酸素が不足してきます。

水草は、ふつうの植物と同じように、明るい昼間は、二酸化炭素を取り入れ、酸素を出しています。気温が上がると、水中の酸素は空気中になげへてきますが、水草の出す酸素はふえてくるので、水そうに水草があれば、酸素不足を防ぐことができるのです。



水そうの水草の役割